

ずいそう

方 言

小林 憲文



私は、現在の会社に1982年に入社し、札幌のサービス工場に配属されてから東日本の各所を廻って来ました。今の部署で8ヶ所目になります。これまで、様々な出身の方々にお世話になってきました。そうそう、出身地は？と人に聞かれたときに迷うことがしばしばあります。生まれは岩手県の盛岡市ですが、3ヶ月しか居ませんでした。小～高校までは宮城県の仙台市なので、出身地は、岩手なのでしょうか、宮城なのでしょうか。思い起こせば、父親の仕事の関係上、2つの幼稚園、3つの小学校と、転校後、慣れるまで大変な思いをした事を記憶しています。

さて、そんな騎馬民族的人生を送っていますので、『郷に入れば、郷に従え』の言葉どおり周りに言葉を合わせてきたために、言葉は結構標準語に近いと思っております。いや、思っておりました。というのは、相模原に在勤中、横浜出身の妻と所帯を持ちましたが、家の中で、『そこのゴミを投げておいて』と言ったら、『どうして、ゴミを投げるの？』と、聞かれたので『いや、だから、そこの紙くずを片付けて、投げておいて…』会話になりません。『ゴミは捨てるものですよ』『当たり前だよ。だから、投げておいてって言っているんだよ…』。ハッ！と思いました。今まで、何の気なしに使っていた〔ゴミを投げる〕は標準語ではなかった…。

周りの方によ～く聞いてみますと、私の発言は、『明日の朝、早いから』が『あすなさ、はやいがら』になっていたり、『お風呂のお湯、熱いから水を入れて』が『お風呂うめて、かまして』になっていたり…。『そんなわけないよ』が『すったらわけね～よ』のよう。でも、気を張って丁寧に話せば、何とか聞きやすい言葉とは思いますが、ハイ。

思い起こせば、神奈川県に在勤時代、社内に東北県人会という集まりがあり、年に4回ほど集まっていま

した。近隣の営業所の東北出身者15名ほどで単なる飲み会でしたが、気が向いたら気軽に誘って、年配者から若輩者まで分け隔てなく飲んで懇親を深めていました。会合が始まって1時間もすると、誰からともなく『標準語使用禁止！！』と声がかかります。これからは大変です。部屋のあっちこっちで2～3人集まって語りだします。他のグループの会話はほとんど理解不能になります。特に、津軽弁グループはどんな大声も全く解読不能です。他の県人より、『おめ～だじ、しずねっつうの！』というのわかりませんが…。でも、みんなの表情は、生き生きとしており、仕事の悩み事の相談をするもの、受けるもの、普段口下手な人が高らかに笑っている姿…。本当にストレス発散になったことを覚えています。出身が同じだけ、同じ方言を話すだけで、どうしてこんなに垣根なく会話できるのか、不思議とも思わなかったですね。時間もあっという間に過ぎて、次の開催時期をあいまいに決めて解散となりますが、皆、名残惜しそうに帰路に散っていきます。

最近、会話に方言が出るのをそんなに恥ずかしいこととは思わなくなりました。とても暖かみのある表現だと思っています。また、テレビやラジオで方言が出てくるとほっとしますし、懐かしくてこみ上げる時もあります。ドラマの『東京タワー』や時々見るNHK朝の連ドラ『どんと晴れ』もいいですね。そうそう、標準語の中心地東京も地方出身者のあつまりですから…。これからも、いろいろな方とすばらしい出会いがあると思いますが、コミュニケーションの潤滑材として方言を大切にしていきたいと思っています。

『いず、ぬっ、さん、すー、ごお、ろぐ、すづ、はづ、くー、とお』とても言い易いのですが、ひょうずん語ではありませんね(笑)。